

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：ESPフォーキャスト調査(2010年8月)

発表日：2010年8月10日(火)

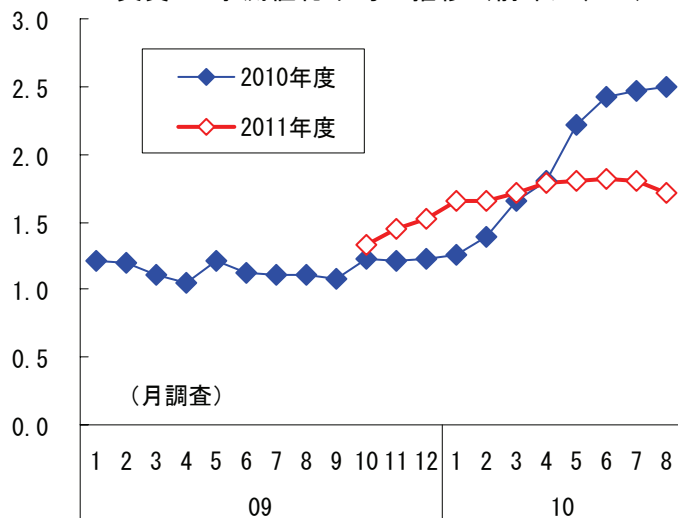
～2010年後半の見方が下方修正～

第一生命経済研究所 経済調査部

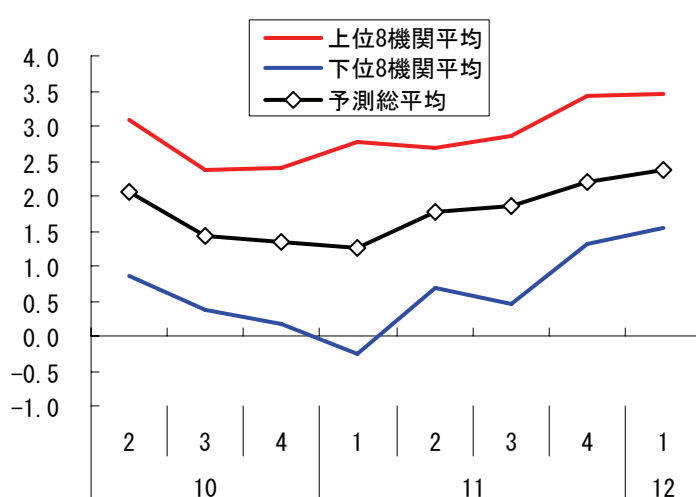
担当 主任エコノミスト 新家 義貴

TEL：03-5221-4528

実質GDP予測値総平均の推移（前年比、%）



実質GDP予測（前期比年率、8月調査、%）



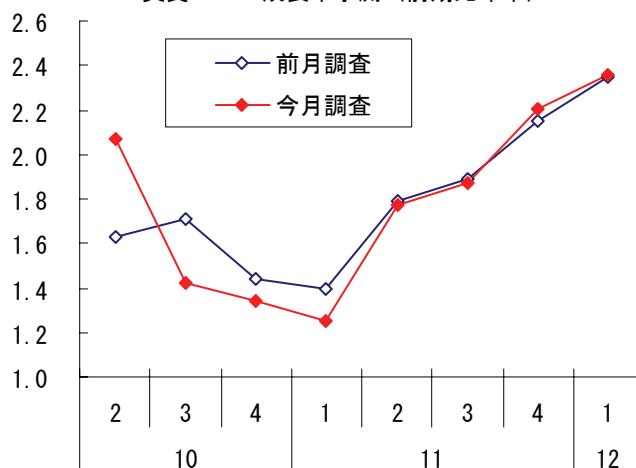
（出所）経済企画協会「ESPフォーキャスト調査」より作成

○ 2010年7-9月期以降が下方修正

経済企画協会から8月のESPフォーキャスト調査が発表された。ESPフォーキャスト調査は、多くのエコノミスト・調査機関を対象にGDP成長率や消費者物価などについての予測値を集計しているものであり、月々のコンセンサスの推移が把握できる（回答期間7/27～8/3 回答数42）。

2010年度の実質GDP成長率予測値は前年比+2.50%と、前月調査の+2.47%から僅かに上方修正された。これは、10年4-6月期予測が前期比年率+2.07%と、前月の同+1.63%から上方修正され、年度の成長率の発射台が上がったことによるものである。7-9月期以降はむしろ全体的に下方修正されており、7-9月期が同+1.42%（前月：同+1.71%）、10-12月期が同+1.34%（前月：同+1.34%）、2011年1-3月期が同+1.25%（前月：同+1.40%）と、先行き緩やかに減速していく予想になっている。足元で輸出の伸びが鈍化していることや、鉱工業生産に足踏みの動きがみられていることなどを反映しているのだろう。2011年4-6月期以降については前月調査からほとんど変化はなく、11年4-6月期が同+1.77%、7-9月期が同+1.87%、10-12月期が同+2.20%、2012年1-3月期が同+2.36%と、再び緩やかに成長率が高まる姿が想定されている。なお、2011年度の見通しは+1.71%（前月：同+1.81%）と、前月調査から下方修正となっているが、これは

（%） 実質GDP成長率予測（前期比年率）

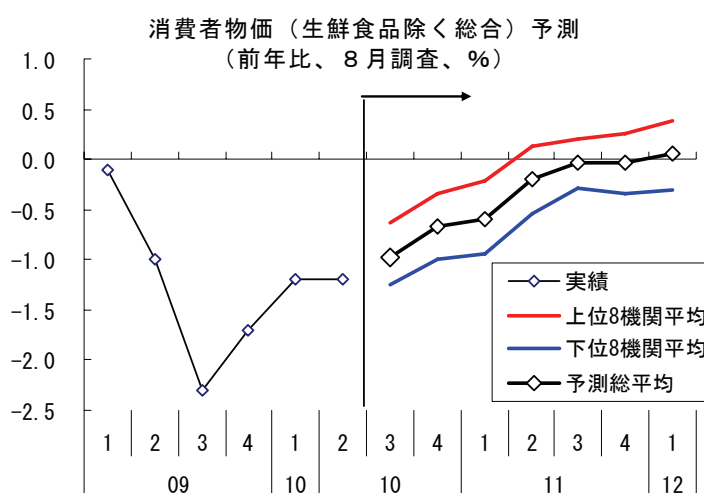


2010 年度後半の成長率が下方修正されたことから、2011 年度にかけての成長率のゲタが下がったことが影響している。

失業率の見通しについては、10 年度平均が 4.98%（前月：4.90%）、11 年度平均は 4.66%（前月：4.60%）と、前月から若干悪化方向に修正された。3 月以降、4 ケ月連続で失業率が上昇し、雇用改善のペースが鈍いことが示されたことが影響しているとみられる。もっとも、景気回復の波及が徐々に進んできたことにより、雇用環境は最悪期を脱したとの見方自体は変わっておらず、四半期ごとの推移をみると、2010 年 4-6 月期の 5.2%から、予測期間の最終四半期である 2012 年 1-3 月期には 4.55%までの低下が見込まれている。

○ 消費者物価の下落幅は緩やかに縮小する見込み

消費者物価指数（コア）の見通しは、10 年度が同▲0.88%（前月：同▲0.92%）、11 年度は同▲0.06%（前月：同▲0.05%）と、ほとんど変化はなかった。四半期ごとの推移をみると、先行き下落幅が緩やかに縮小するとの見方になっており、12 年 1-3 月期には同 0.05%と、僅かではあるが水面上に浮上するとされている。



(出所) 経済企画協会「ESPフォーキャスト調査」より作成